

居住誘導区域ベースエリアの検討 別紙

(島田川洪水浸水想定区域の比較検討)

除外区域の検討表

洪水浸水想定区域を居住誘導区域から除外するにあたり、除外する条件を3パターンに分けて検討

居住誘導区域から除外するハザードエリアとして、洪水浸水想定区域の「L1浸水想定区域全域」、「L2浸水深3.0m以上」、「L2浸水区域全域」について、検討を行った。

検討パターン2における、洪水浸水深3.0m以上を除外条件とした根拠は、建物の2階床高に相当する高さで、平屋以外は「垂直避難」が可能な浸水深であることによる。

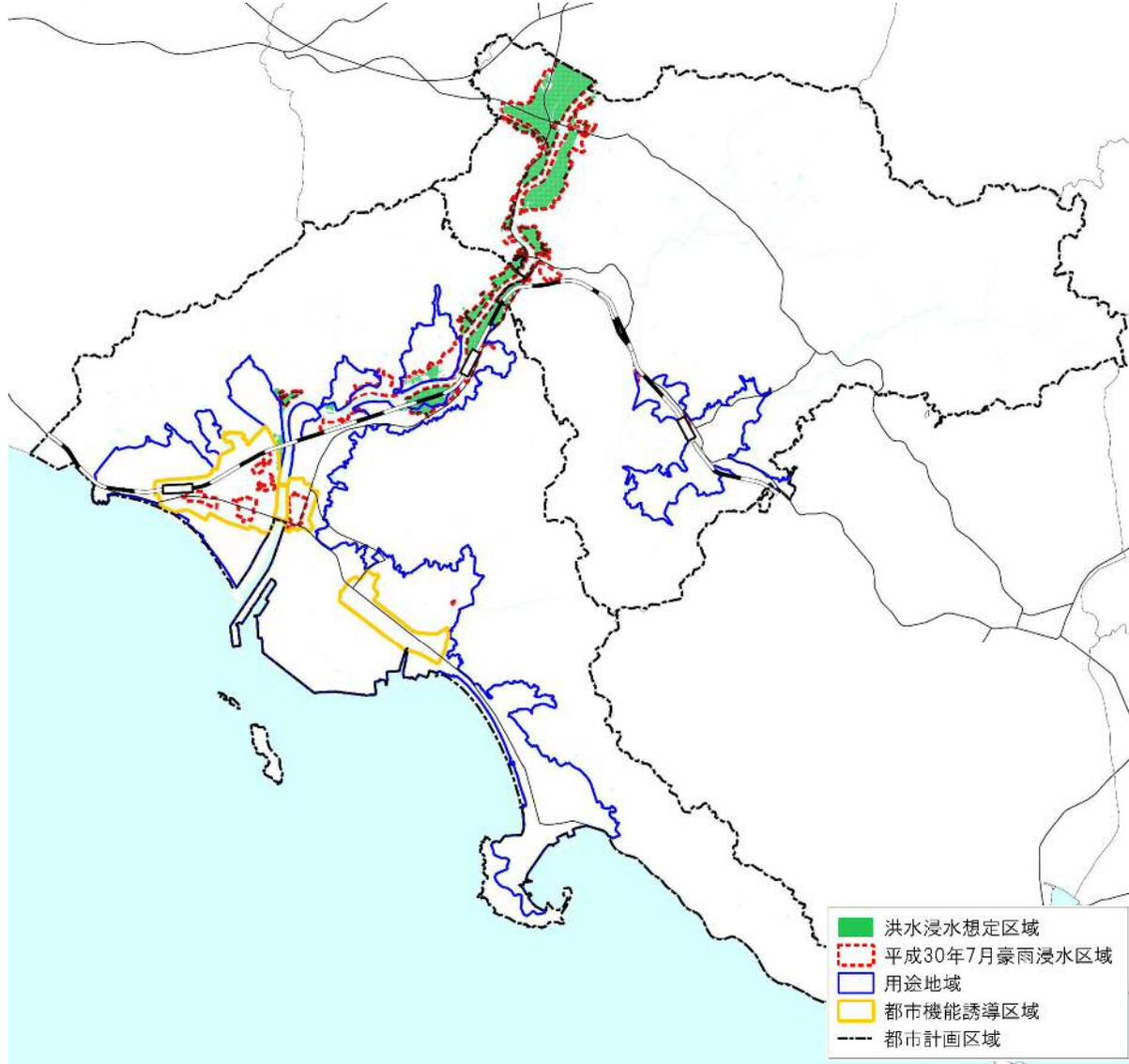
		検討パターン1	検討パターン2	検討パターン3
洪水浸水想定区域		L1（計画規模）洪水浸水想定区域 全域を除外	L2（想定最大規模）洪水浸水想定区域 浸水深3.0m以上を除外	L2（想定最大規模）洪水浸水想定区域 全域を除外
都市機能誘導 区域の面積 (ha)	光駅周辺～島 田市	182.0	175.2 (96%)	67.8 (37%)
	市役所周辺	64.2	64.2	64.2
	合計	246.2	239.4 (97%)	132.0 (54%)

L1（計画規模） 浸水想定区域全域を除外した場合（検討パターン1）

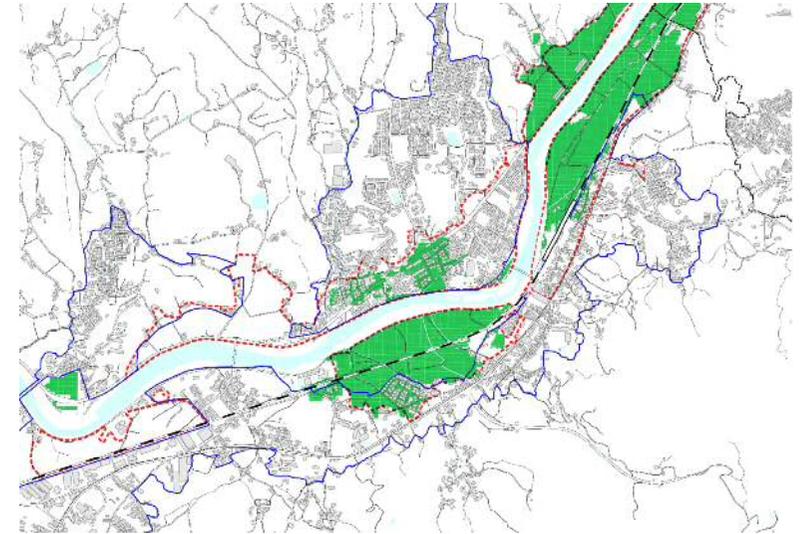
L1の浸水想定区域全域を除外エリアとした図では、平成30年7月豪雨での浸水区域が居住誘導区域検討エリアに広い範囲で含まれることとなる。

➡ L1浸水想定区域全域を除外エリアとした場合、平成30年7月豪雨の浸水実績と比較して、**安全性が担保できない。**

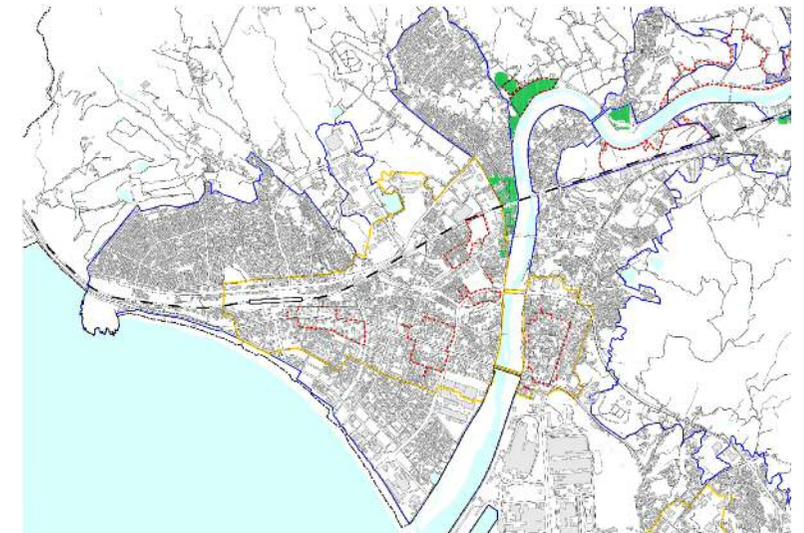
市域全体



島田駅周辺



光駅周辺～島田市地区

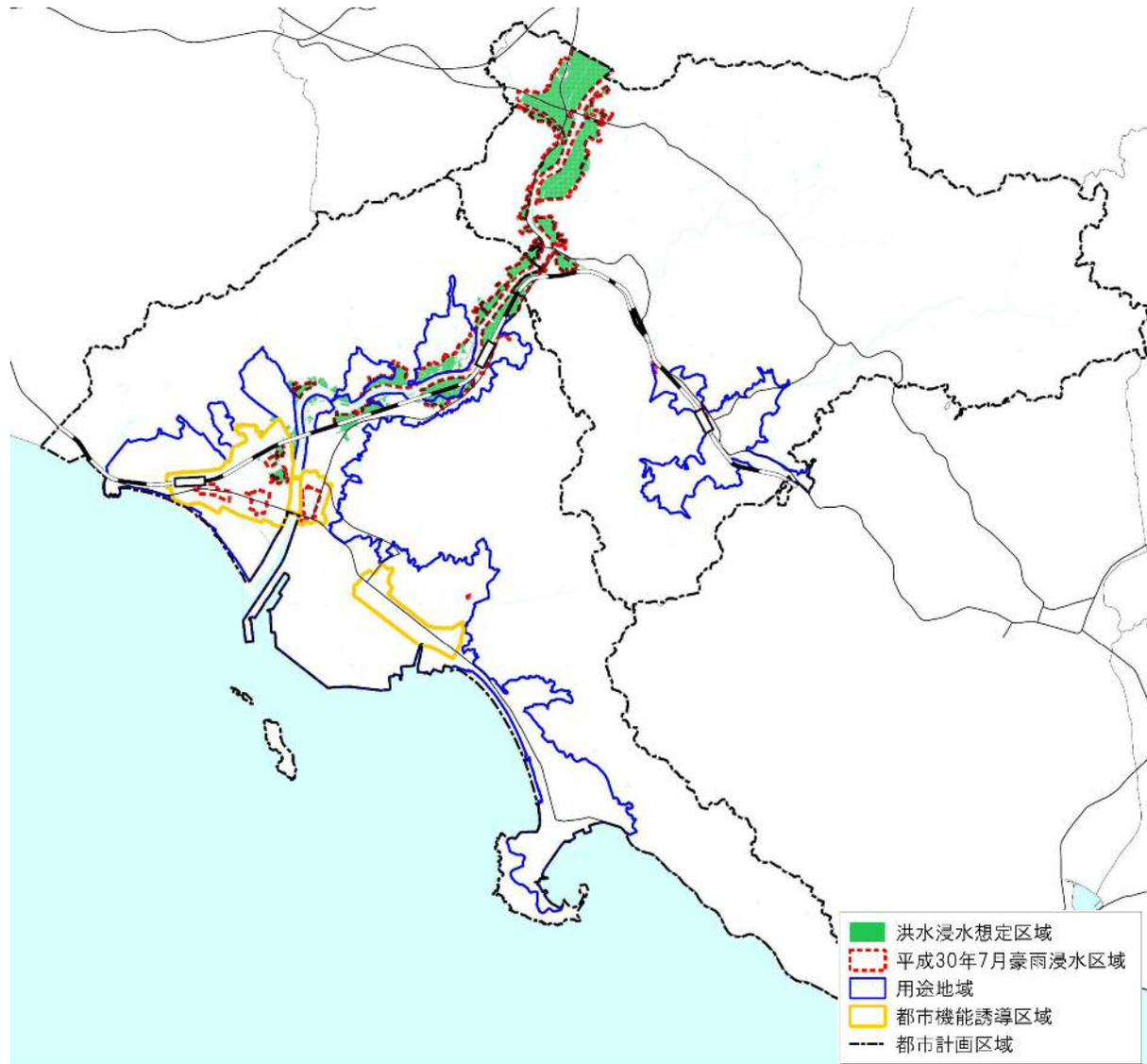


L2（想定最大規模）浸水深3.0m以上を除外した場合（検討パターン2）

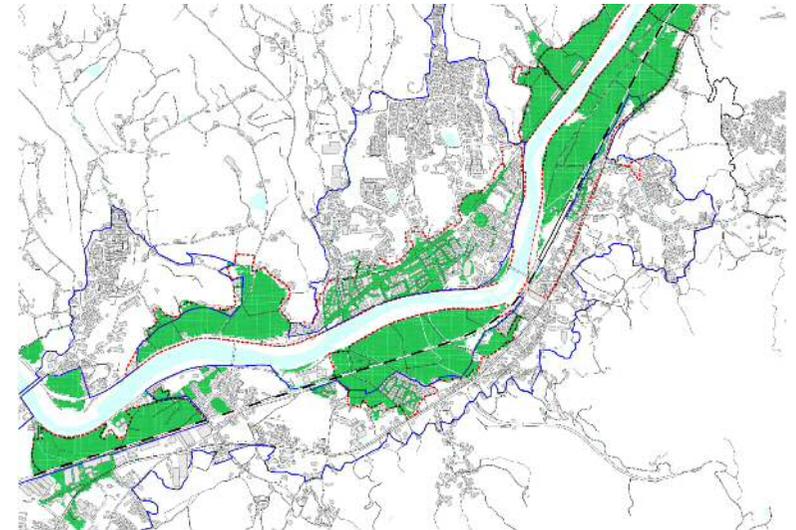
L2浸水深3.0m以上の浸水想定区域を除外エリアとした図では、平成30年7月豪雨の浸水区域の大部分を除外できる。
検討パターン3のL2全域を除外した場合に比べると、居住誘導区域検討エリアを広い範囲で確保できる。
洪水浸水深の除外基準3.0mは、建物の2階床下に相当する高さで、平屋以外では「垂直避難」が可能な浸水深である。

➡ L2浸水深3.0m以上を除外エリアとした場合、洪水浸水の危険性のある程度回避できる上に、都市機能及び居住を誘導すべきエリアを確保できる。

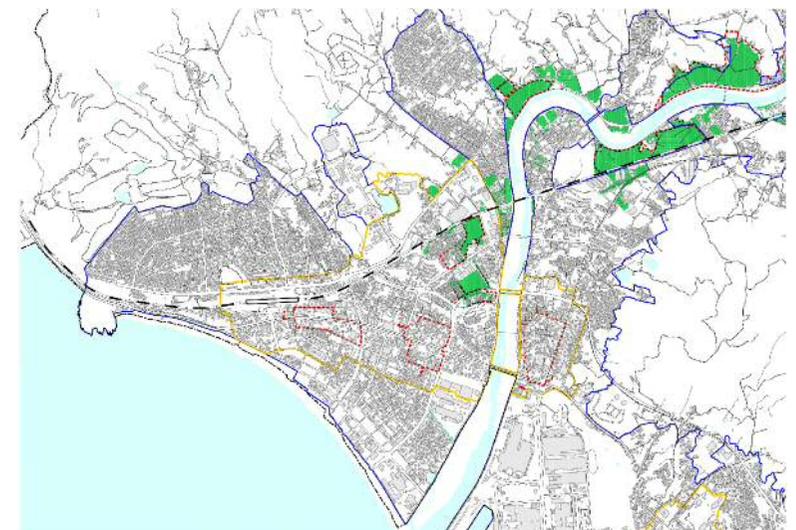
市域全体



島田駅周辺



光駅周辺～島田市地区



L2（想定最大規模）浸水想定区域全域を除外した場合（検討パターン3）

L2浸水想定区域全域を除外エリアとした図では、光駅周辺～島田市地区の広範囲が都市機能誘導区域から外れてしまう。（現計画の約37%に縮小）
都市機能誘導区域の縮小に伴い、居住誘導できる土地が減少する。
島田駅周辺地区において、居住誘導区域検討エリアの大部分が除外されることとなる。

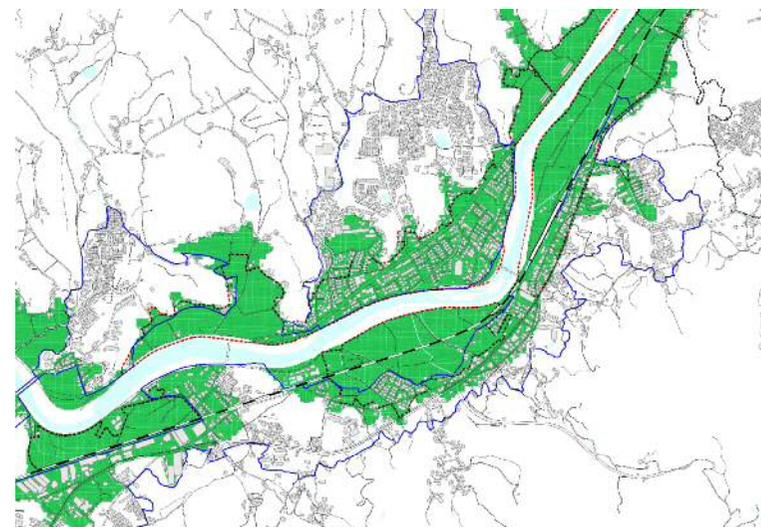


L2浸水想定区域全体を除外エリアとした場合、**居住・都市機能を誘導する土地面積が不足する。**

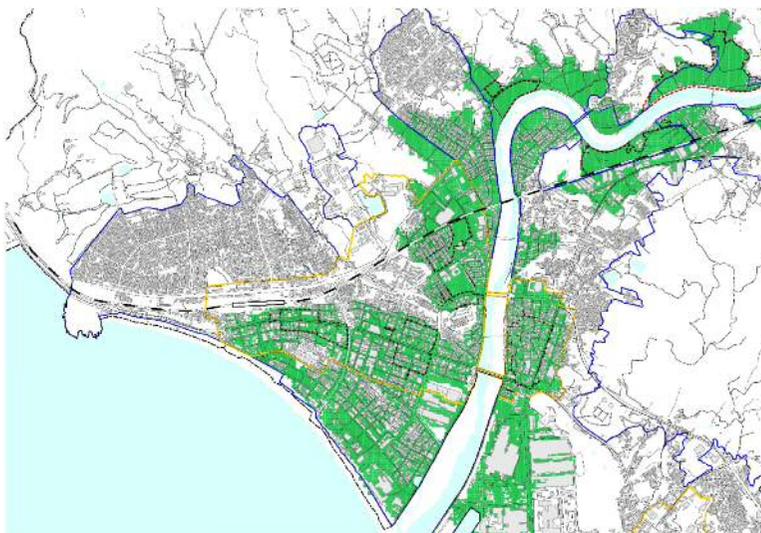
市域全体



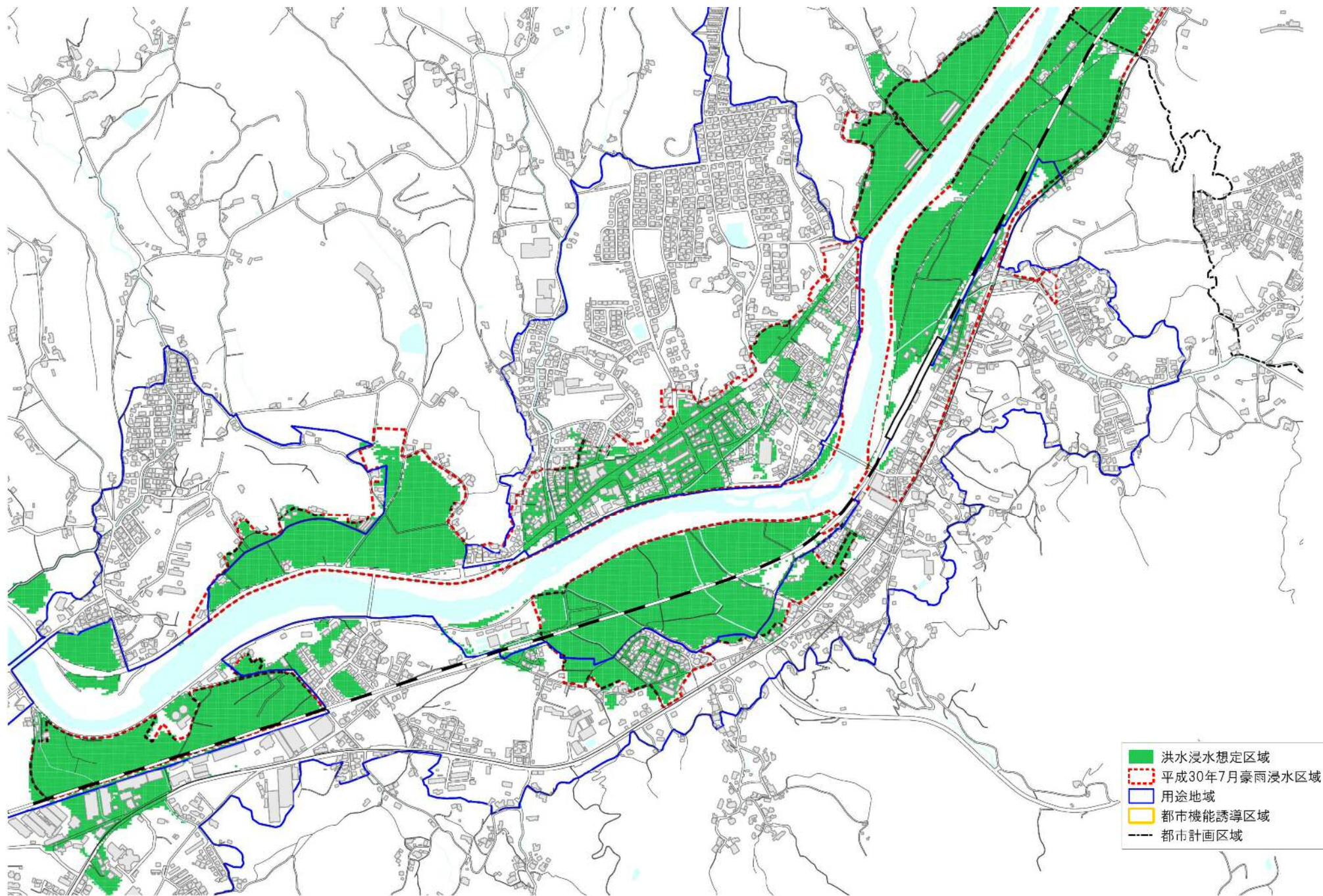
島田駅周辺



光駅周辺～島田市地区



島田駅周辺拡大図（L2（想定最大規模）浸水深3.0m以上を除外した場合 ※検討パターン2）



- 洪水浸水想定区域
- 平成30年7月豪雨浸水区域
- 用途地域
- 都市機能誘導区域
- 都市計画区域

